

1 学校教育目標

『いちょうのようにたくましく 共に学び 共に遊ぶ』（知徳体の涵養）

人権尊重の精神を基調とし「共に生きる」ことを基盤として一人一人の児童を大切に、意欲・自信をもたせる教育を推進し、社会に貢献できる心身ともに健康で知・徳・体のバランスの取れた心身ともに健康で、自ら考え正しく判断し、社会の変化に主体的かつ柔軟に対応して生き

る児童の育成を目指すと共に、令和4年度の統合を見据えて、以下のように教育目標を補完する。

○かしこく（共に学び：創造的に生きる力）…自ら考え、正しく判断し、新しさを自由に求める創造性豊かな子

○やさしく（共に遊ぶ：心豊かに生きる力）…友達のよさを認め温かい心で接し、互いに励まし合う子

○たくましく（銀杏：柔軟に強く生きる力）…心身ともに健康で正義感と責任をもち自分の力で柔軟に対応できる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童に基礎学力および基礎体力をつけて、その有用性を理解させていける学校 ○児童一人一人が自分自身の思いや願いをしっかりと伝える力をつける学校 ○児童一人一人が活躍する場を創り、粘り強くやり通す力を育成する学校
○児童・生徒像	○課題をしっかりと受け止め、解決に向かい自ら考え、学び合える児童 ○相手意識及び規範意識や社会性を身につけた、思いやりのある児童 ○何事も最後まで頑張る気持ちと体力を身につけやり通す、たくましい児童
○教師像	○指導力の向上をめざし力量を高めるために、主体的・意欲的に研修に励む教師 ○しっかりとした人権感覚をもち、保護者・地域と協力しながら共有ができる教師 ○児童の実態を分析し児童理解の上に立って、計画的・意図的な実践ができる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

●令和2年度はコロナ禍によりほとんどの学校行事で保護者や地域の方に見ていただけなかったことから、学校での児童の様子が分からず、一方的な話が独り歩きし不安を募らせていたことがあった。

【学校の現状】

① 児童について

東京ベーシックドリル・基礎学習タイムの設定など、基礎学力の定着を図った取り組みを進めているが、学習の習得状況としては、児童の全員が目標に到達しているとは言えない。今年度も、文章を読み取る力・自分の考えや感じたことを書いたり伝え合ったりする力の育成と共に学習習慣の定着を課題として取り組む。

② 教職員について

児童の学力向上に向け、主幹教諭・主任教諭を中心として、組織的・意識的に指導に取り組んできた。管理職や教科指導専門員による授業観察指導・校内研究授業・小中連携での実践研究・学校公開の授業診断を通して、さらなる授業改善をめざす。

③ 保護者について

各担任を通じた学校・家庭の連携、PTA行事や土曜授業公開・放課後子ども教室等の取り組みを通しての教育活動・PTA活動への支援・協力体

制ができている。さらに、連携を深化させていくことを課題と考える。

【前年度の成果と課題】

- ① 学力向上を「自分の考えをもつ、学び合う、自己決定できる」ことに方向づけをしたことで、学力推進定着委員会を中心として組織的に取り組み、方策の推進を行うことができた。区学力調査の分析を基に各学年が児童の実態をとらえ、週3回のパワーアップタイムや放課後の補充教室などにおいて、基礎基本の定着を図ることにつなげた。また、7回の校内研究授業や教科指導専門員の指導を通して足立スタンダードの理解を図り、教員の授業力向上を行った。課題としては、SP表の活用など、教員による学習状況の分析と活用が十分でなかった。
- ② 開かれた学校づくり協議会、PTA、児童代表委員会が連携し、学校全体であいさつの励行を行った。基本的な生活習慣の共通理解と徹底を図っているが、学習規律や生活規律では、子供の育成の意識化に課題を残した。一人一人の教職員が学校全体に目を向け、連携した指導にあたり、自他を大切にする心を実感させるような学校の活動を重視していく。

江北桜小中学校連携では、学力向上に向け、相互の授業研究会に全員が参加し、資質の向上を図ってきた。年間を通して同じ教科部会で研究を行い、それぞれの部会提案を受けての研究協議会の中で話し合う視点を明確にすることで、連携は強化された。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	体力の向上	○	○	○	○	○
3	豊かな心の育成	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
自主学習の定着を図り、自ら進んで学ぶ児童の育成		国語80% 算数85% 英語85% 全体83%		自己評価の際に記入					
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	図書活動 の充実	全学年 国語	各季	読書旬間（4月、11月） 夏休み読書、副休み読書 読書カードに記録し、おすす めの本を紹介する。	3月集計	・蔵書基準冊数対貸 出冊数比100%超。	自己評価の際に記入する。		

2 継続	MIMの充実	1年 国語	毎月	・職員会議等で取り組み状況を周知し、現状を共有・確認する。	3月アセスメント	・3月時に3rd半減。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入する。</div>
3 継続	朝学習（パワーアップタイム）	全学年 国語 算数	火（国語） 木（算数） 金（図書） 始業前15分	【指導者体制】担任 【取り組みのねらい】 学習内容の復習・確認 【使用教材】漢字、計算のプリント学習（てんまるを基本とする） ・火曜日はモジュール。漢字・言語事項の学習 ・金曜日は読書活動	単元ごとにミニテストを実施する。	ミニテストで学級の8割の児童が80%以上の結果を出す。	
4 継続	放課後補習教室	全学年 国語・算数 正答率 70%未満 単元テスト70%未満（1年は後期より実施）	月曜3・5年 火曜4・6年（1年） 木曜4・5年 金曜2・3年	【指導者体制】担任、専科、学習支援員、管理職 【取り組みのねらい】 つまずきに合わせ個別、または少人数で指導。特に読解に力を入れる。 【使用教材】ワークベーシックドリル等	定着確認テスト（2月）	2月に実施する定着確認テストで正答率-10%以内。	

5 継続	夏季学習 教室	3～5年 国語・算数 正答率70% 以下の児童 を中心 に各クラ ス5～6名	7月21日～ 5日間 8月21日～ 5日間 計10日間	【指導者体制】 全教員（各学年3人体制で 指導する） 【取り組みのねらい】 つまずきに応じて演習 【使用教材】 夏季休業用ワークブック	最終回に確認テ ストを実施	最終回のテストで 正答率10%アップ	自己評価の際に記入
6 継続	教師の授 業力向上	【若手研】 ・若手教員 研修・授業 参観。 【小中連 携】 ・6分科会 【校内研 究】 【ICT 機器 の活用】・	毎月木曜 日（10回/ 年） （研究授 業計7 回） 計6回実 施 計3回 7,10,1月 各半期	・年間計画に沿い実施。 ・長期休業に実施。授業・ 生活指導・勤務・服務に関 すること等。 ・分科会単位で行う。 ・外部講師による指導。 ・プログラミングに関する 授業の実施	定着確認テスト （2月）	・学級間の通過率の 差10ポイント未 満。 ・定着確認テスト通 過率を4月-10%以 内 ・8割	

重点的な取組事項－2		体力の向上						
A 今年度の成果目標		達成基準			実施結果		コメント・課題	達成度
体力調査の数値向上		全項目の 80%以上が区以上			自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み								
項目	達成基準	具体的な方策			実施結果	コメント・課題	達成度	
投げる力の向上	○体力調査の結果を平均値 5%上げる	◇投力向上の場を日常的に設定する。			自己評価の際に記入			
持久力の向上	○長短縄跳び・持久走に取り組 む児童80%	◇長短縄跳びタイムの期間延長 ◇持久走に取り組み期間の延長						
跳躍力の向上	①「反復横跳び」と ②「立ち幅跳び」で80%以上が 区平均以上	◇授業での取扱 ◇短縄週間の期間延長						

6 まとめ

- (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性
- (2) 保護者や地域へのメッセージ
- (3) その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入します。

経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。